府立刀根山高等学校
校長　無津呂　弘之

令和６年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

教育目標　「自ら未来を切り拓く　心豊かでたくましい人間を育てる」　～希望進路の実現を支援する学校づくりをめざして～

教育方針　１:学力の充実を図り希望進路を実現させる　２:学校行事・部活動を充実させる　３:基本的な生活習慣を確立させる　４:安心できる学校生活を確立させる

２　中期的目標

１　生徒が夢と志を抱き、希望する進路を実現させるための進路指導の確立

（１）キャリア教育を充実させ、生きる意味、働く意味、学ぶ意味を考えさせ、具体的な夢を描かせる。

３年間の進路指導計画を策定し、生徒が主体的に進路実現できるよう指導する。

※学校教育自己診断（生徒）「学校で将来の生き方について考える機会がある」の肯定率をＲ８年度も 90%以上を維持する。(Ｒ３:92% Ｒ４:95% Ｒ５:96%)

（２）将来の夢への入り口となる進学をめざすために、チャレンジする意欲を醸成し、粘り強く取り組む力を育成する。

ア　「行ける大学」ではなく「行きたい大学」への進学をめざす。

※国公立大学及び関西難関私立大学（関関同立・産近甲龍）への現役進学者数をＲ８年度も 100 人以上を維持する。(Ｒ３:96 人 Ｒ４:104 人 Ｒ５:103 人)

イ　総合的な探究の時間にキャリアについての学びの機会を設け、自分の希望進路に関連づける。その際 SDGs についての理解を深め、国際的な視点でのキャリア感覚も身に付けさせる。

２　「確かな学力」の育成とそのための教員の授業力の向上

（１）自己の進路実現と学力の関連性を意識させ、学習意欲を向上させる。

ア　志望する大学等へ進学するために必要な学力を意識させ、授業第一主義を確立するとともに、家庭や放課後での自学自習を充実させる。

※学校教育自己診断（生徒）「学校の授業は分かりやすい」の肯定率をＲ８年度も 70%以上を維持する。(Ｒ３:77% Ｒ４:72% Ｒ５:78%)

イ　論理的思考力・課題解決力・自分の意見や考えをまとめて表現し伝える力を育成する。

※学校教育自己診断（生徒）「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」の肯定率をＲ８年度も 80%以上で維持する。(Ｒ３:81% Ｒ４:85% Ｒ５:88%)

（２）「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業力向上に取り組む。

ア　大学入試改革に対応するだけでなく、社会に出てから求められる力としても重要視し、ICT を活用した効果的・効率的な授業、生徒が積極的にアウトプットする機会のある授業を推進する。※生徒向け授業アンケートの「授業に興味・関心がある」肯定率をＲ８年度も 80%以上を維持する。(Ｒ３:80% Ｒ４:82% Ｒ５:83%)

イ　他校での先進事例の視察や、教育センター等が主催する研修への積極的に参加し、そこでの取組み内容を共有することで全体の授業力を向上させる。

ウ　教員用タブレット PC と１人１台端末の導入により更なる ICT の有効活用について研究し、学びの充実を図る。

（３）資質・能力の育成につながるよう多面的・多角的な学習評価の工夫を図る。

ア　全ての教科で新学習指導要領に対応した、観点別評価による「指導と評価の年間計画（シラバス)」を作成し、評価の方法を確立する。特に「主体的な学び」についての評価方法は引き続き検討を重ねる。

３　心豊かでたくましい人間性の育成

（１）他者理解と多様性を尊重し、鋭い人権感覚を育成する。

ア　授業、HR 活動などあらゆる教育活動を通して多様な人権課題を提示し主体的に学べる機会を設けることで、適切な人権感覚を育成する。

※学校教育自己診断（生徒）「学校の授業や行事で人権の大切さを学ぶ機会がある」の肯定率をＲ８年度には 80%以上を維持する。(Ｒ３:76% Ｒ４:78% Ｒ５:81%)

イ　学校行事・部活動・ボランティア活動・インターンシップ等への積極的な参加を図ることで、他者理解の姿勢を育成する。

※学校教育自己診断（生徒）「文化祭や体育大会は、活発で楽しい」の肯定率をＲ８年度も 80%以上を維持する。(Ｒ３:70% Ｒ４:83% Ｒ５:91%)

ウ　海外研修と海外からの留学生の招聘を実施し、国際交流を通じて多様な文化を体験し国際的な視野を育成する。

（２）情報リテラシー及び情報モラルを育成する。

ア　情報の授業において、専門家による講演等をおこない、生徒が加害者にも被害者にもならない対策をとる。

イ　１人１台端末の導入を受け、情報社会で通用する人材を育成するため、ICT の有効利用など、教職員の情報に関する指導力を向上させる。

（３）生徒が安心して学校生活をおくれる体制を整え、基本的生活習慣の定着・改善を図るとともに、規範意識を向上させる。

ア　教職員が寄り添いの姿勢で生徒に接し、生徒が相談しやすい指導体制を充実させることで、安全・安心な場を確保する。

※学校教育自己診断（生徒）「悩みや相談に親身になって聞いてくれる先生がいる」の肯定率をＲ８年度は 75%以上を維持する。(Ｒ３:73% Ｒ４:74% Ｒ５:75%)

イ　これまでの取組みを進めることで、基本的生活習慣（挨拶、時間、身だしなみ、交通マナー、美化活動、授業態度等）の改善・定着を図る。

※年間遅刻数をＲ８年度は 2000 回以下にする。(Ｒ３:2285 回 Ｒ４:2475 回 Ｒ５:2661 回)

４　地域に開かれた学校づくりと魅力ある学校づくり

（１）本校の教育活動について積極的に情報発信し、地域の方々に活動への理解を広げるとともに、魅力ある学校づくりを推進する。

ア　本校教職員による中学校訪問を行い、本校の取組みや生徒の状況を共有することにより、中高相互の理解や連携を深める。

イ　HP の内容充実を図り、本校の魅力を発信することで、中学生や地域の方々に本校の教育活動への理解を広げる。

※HP の閲覧数の１日平均 900 を維持する。(Ｒ５ 平均約 900)

ウ　保護者へのメール配信を定期的に実施し、連携を深める。

（２）地域との交流・連携を推進することにより、学校を活性化し、学校への信頼を高める。

ア　授業や部活動、生徒会活動などを通して、地域の活動等に積極的に参加し、小学校、保育所など各機関・団体との交流・連携を推進する。

イ　裏山を活用した環境教育を推進し、持続可能な社会の実現に貢献する。

５　働き方改革による校務の効率化と教職員の健康増進

（１）部活動指導・諸会議など多くの場面で校務の効率化を図り、勤務時間の短縮を図るとともに教職員間のよりよい人間関係を構築する。

※学校教育自己診断（教員）「日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に相談し合える職場の人間関係ができている」の肯定率をＲ８年度も 80%以上を維持する（Ｒ３:83% Ｒ４:80% Ｒ５:74%)

（２）各分掌、学年での年間業務を整理し、校務の効率化を図ることで生徒と向き合う時間を確保する。

※学校教育自己診断（生徒）「先生は熱心に授業や部活動その他の仕事にあたっている」の肯定率をＲ８年度以降も 80%以上を維持する。(Ｒ３:83% Ｒ４:82% Ｒ５:89%)

府立刀根山高等学校

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[令和 年　月実施分]	学校運営協議会からの意見

３　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標［R５年度値］	自己評価
１　生徒が夢と志を抱き、希望する進路を実現させるための進路指導の確立	（１）キャリア教育の充実とその具体化 ・３年間の進路指導計画の更新 ・主体的に進路を切り拓く指導の充実	（１） ・各種進路ガイダンスを展開し学年、学校全体で課題を共有し、今後の進路指導に生かす。 ・大学入学共通テストなど大学入試に関する最新の情報を整理し、生徒の主体的な進路決定をサポートする。	（１） ・学校教育自己診断（生徒）「学校で将来の生き方について考える機会がある」肯定率 90%［ 96% ］ ・学校教育自己診断（生徒）「HR などで進路についての情報を提供されている」肯定率 90%［ 95% ］	
	（２）チャレンジする力と粘り強さの育成 ア　行きたい大学へ進学するためのガイダンス実施 イ「総合的な探究の時間」との連動 ウ　資格試験受験の奨励	（２） ア・入学当初に高校生活や学習法について丁寧に説明する。また基本的な生活習慣の確立をサポートし、読書を含む適切な学習習慣を早期に確立させる。 ・１年時から系統的な進路指導を進め、生徒・保護者向け進路講演会、ガイダンス等を着実に実施する。 イ・探究の授業でも自分の進路を考える機会を作り、夢や志を具体化させる。 ウ・1.2 年生全員が英検受験することで、英語に対する学習意欲をよりいっそう引き出す。	（２） ア・１年生２学期段階での平日・休日の自宅学習時間を確保させる。 平日 65 分・休日 95 分[平日 47 分・休日 78 分] ・国公立及び関西難関私大への現役進学者数 60 人［ 62 人 ］ イ・第２学年の「総合的な探究の時間」で「進路の理解が深まった」肯定的率 65%［ 71% ］ ウ・実施後のアンケート「英語をより勉強したいという意欲の変化」（１・２年平均）肯定率 60%［ 65% ］	
２　「確かな学力」の育成とそのための教員の授業力の向上	（１）学習意欲の向上 ア　必要な学力の獲得と授業第一主義の確立、自学自習の充実 イ　論理的思考力・課題解決力・自分の意見や考えをまとめて表現し伝える力の育成	（１） ア・より分かりやすい授業展開と自宅学習の促進で学力向上を図る。 ・自宅学習課題を適切に出し、自学自習を支援する。 イ・各教科の授業の中で、ディベートやプレゼンテーションだけでなく、自分の考えをまとめてノートに記述するなどの時間も確保して「考え表現する力」を育成する。 ・特に探究の授業では、情報収集・討論・調査・まとめの活動を通してこれらの力の育成を図る。	（１） ア・学校教育自己診断（生徒）「学校の授業は分かりやすい」肯定率 75%［ 78% ］ イ・学校教育自己診断（生徒）「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」 肯定率 80%［ 88% ］ ・第１学年の「総合的な探究の時間」に対する肯定的な評価 85%［ 87% ］	
	（２）授業力向上 ア　ICT を活用した効果的・効率的で興味を持てる授業の推進 イ　教育センター主催研修等の内容の全体への共有 ウ　教員用タブレット PC 導入による ICT の有効活用について研究	（２） ア・１人１台端末の導入に伴い、これまで以上に興味・関心を持てる授業を推進する。 イ・10 年経験者研修等の取組内容を校内で共有し、職員研修として企画実施することで全体の授業力向上につなげる。 ウ・教員用のタブレット PC や１人１台端末の効果的な活用方法に関する授業見学週間と研究協議を実施し、全体の授業力向上につなげる。	（２） ア・生徒向け授業アンケートの「授業に興味・関心が持てるようになった」肯定率 80%［ 83% ］ イ・授業力向上に向けた職員研修と協議を年に２回実施する。 ウ・学校教育自己診断（教員）「コンピューターなどの情報機器が各教科の授業などで活用されている」 肯定率 95%［89% ］	
	（３）多面的・多角的な学習評価の工夫 新学習指導要領に対応した観点別評価の実施	（３） ・観点別評価を実施、検証のうえ、来年度以降につなげる。 ・観点別評価の中でも、特に主体的な学びの評価方法については教科と全体での議論を継続して行う。	（３） ・学校教育自己診断（教員）「本校では評価のあり方について話し合う機会がよくある」 肯定率 80%［ 80% ］	

府立刀根山高等学校

３　心豊かでたくましい人間性の育成	（１）他者理解と多様性の尊重 ア　多様な人権課題の提示 イ　各種行事への積極的な参加 ウ　国際交流等による国際的な視野の育成	（１） ア・人権教育推進委員会と学年・教科が連携し、生徒が主体的に学べるような様々な人権課題を提示する。 イ・学校行事・部活動・ボランティア活動・インターンシップ等への積極的な参加を図る。 ウ・海外での語学研修や訪日した高校との交流などを実施する。	（１） ア・学校教育自己診断（生徒）「学校の授業や行事で人権の大切さを学ぶ機会がある」肯定率 80%［ 81% ］ イ・学校教育自己診断（生徒）「文化祭や体育大会は活発で楽しい」肯定率 80%［91% ］ ウ・海外研修等に参加した生徒へのアンケートで「海外に対する興味・関心が高まった」肯定率 80%［ 新規 ］	
	（２）情報リテラシー及び情報モラルの育成 ア　生徒が加害者にも被害者にもならないための対策の実施 イ　情報社会への対応	（２） ア・SNS 等の利活用について、教科「情報」の授業において、専門家を招聘して１年生に講義講演を行う。 イ・１人１台端末の導入に伴い、情報部主導で教職員の専門性を高めるための情報に関する研修を実施する。	（２） ア・１年生対象に専門家による講義講演を１回は実施する。 イ・学校教育自己診断（教員）「本校では生徒の個人情報保護の体制が確立している」 肯定率 80%［ 75% ］	
	（３）安心できる学校生活の確保 ア　教育相談体制の充実 イ　基本的生活習慣の改善と定着	（３） ア・教育相談委員会が中心となり生徒情報の共有に努め、必要に応じてＳＣの指導助言や外部機関と連携することで、教育相談体制の一層の充実を図る。 イ・基本的な生活習慣の定着のため、これまでの遅刻指導を継続して実施する。	（３） ア・学校教育自己診断（生徒）「悩みや相談に親身になって聞いてくれる先生がいる」 肯定率 70%［75% ］ イ・遅刻数を前年度より減少させる。 2475 件以下［ 2661 件 ］	
４　地域に開かれた学校づくりと魅力ある学校づくり	（１）本校の教育活動の積極的な情報発信 ア　教職員による中学校訪問 イ　HP の充実による魅力の発信 ウ　定期的なメール配信による保護者との連携強化	（１） ア・本校教職員による中学校訪問を行い、本校の取組みや生徒の状況を共有することにより、中高相互の理解や連携を深める。 イ・各種ブログの更新を早めるなど、新たな情報が多数提供されている HP にする。 ウ・毎週末にメールマガジンを配信し、学校の様子を保護者にお知らせする。	（１） ア・夏休み前後に教職員が一定数以上の入学者のある中学校を訪問する。［27 校］ イ・HP の閲覧数の１日平均 900 を維持する。 （R５　平均約 900） ウ・学校教育自己診断（保護者）「学校のメールマガジンを活用している」肯定率 85%［ 88% ］	
	（２）地域との交流・連携の推進 ア　地域の学校や保育園などとの交流・連携の推進 イ　裏山を活用した環境教育の推進と地域交流	（２） ア・地域の学校や福祉施設等との連携事業や地域との防災行事などに取り組む。 ・生徒のボランティア活動をサポートする。 イ・裏山等の刀根山の特徴を活かした地域連携を推進する。コロナの影響で実施困難な場合は、HP 等を利用して引き続き本校の魅力を発信する。	（２） ア・学校教育自己診断（教員）「本校では近隣の学校や地域などとの交流の機会がある」 肯定率 70%［ 76% ］ イ・年間を通して、地元蛍池公民館の主催行事に協力する。生物エコ部の活動と連携させて、全校生徒にも裏山の恩恵を還元する。	
５　働き方改革による校務の効率化	（１）校務の効率化と教職員の健康増進 （２）各分掌、学年の年間業務の整理	（１） ・全教職員で協力して顧問を分担することで、生徒の部活動を保障する。 ・部活動方針（休養日等）の遵守、及び、学校一斉定時退庁日の遵守を推進する。 ・働き方改革の観点から、諸会議の運営方法を見直し、教職員の長時間勤務の縮減を図り、健康増進につなげる。 （２） ・学校経営委員会主導のもと、学校の進むべき方向を見定め、各分掌の役割を整理し業務を見直すことで校務の効率化につなげる。	（１） ・学校教育自己診断（生徒）「生徒会活動や部活動が十分にできる環境が整っている」 肯定率 80%［ 78% ］。 ・年間における休養日 105 日以上の確保、及び、学校一斉退庁日の実施割合 90%をめざす。 ［ 新規 ］ ・学校教育自己診断（教員）「日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に相談し合える職場の人間関係ができている」 肯定率 80%［ 74% ］。 （２） ・学校経営委員会を定期的に開催して、学校の課題を検討し、効率化できる業務を全体に提案してできるところから着手する。	